

シリーズ 環境保全活動発表（最終回）

「竹和の会」の活動

たかつき竹和の会代表 藤原 勝之

当会は2003年設立、今年で14年目になろうとしています。主なる活動場所は高槻市内の公園で竹林の環境整備を市から委嘱された場所と、自然が一杯の中に土地を借り(原地区)で竹炭作り、地元住民の方々とふれ合い場所になっている2カ所です。

現状は会員34名、活動日は毎週木曜日で「**会員相互間の和を大切に、楽しく面白く、チョッピリは人の為に**」をモットーに活動しています。

- ・我々が竹林の環境整備をしている芥川沿いの公園内には、竹林に隣接して高槻自然博物館などの施設があり、沢山の方が憩いの場所として利用されているため、常に良い環境を保つため古竹の伐採、間伐等環境整備を行っており、その結果良いタケノコも沢山出るようになっています。
- ・原地区では(ふれあい広場)ふれあい、憩いの場所として活動しており、月1回ぐらいの予定で竹炭焼をしています。炭焼きは当番を決め朝早くから煙の色、燃焼温度など計測し楽しみながら炭を焼いています。当初は不良な作品が多かったが最近では良質な炭が出来るようになりました。ここにある池ではモリアオガエルが生息していて春には多くの卵が見られますし、シイタケ栽培、ツリーハウスの施設もあり、地域住民の方や一般の方にも活用して頂くようにしています。
- ・年末にはシニアや子供さん対象に公民館などでミニ門松や干支(竹製)作りを行ったり、時々竹製品作りのイベント活動も行っています。



東別院ふれあい道場の活動

東別院ふれあい道場代表 村山 昌和

石田梅岩先生(江戸時代・石門心学の開祖)の生家(亀岡市東別院町)の休耕田及び里山を拝借し、稲作・野菜類の栽培・里山の管理と地域交流の活動を行い、昨年で10年が経過、現在13人で毎週月・木曜日に活動しています。

平成28年度の活動を四季ごとに区切って紹介します。

春(4月~6月) 亀岡東別院の春は1か月遅く、山菜を摘みながら春を待つ。遅霜に気を配りながら夏野菜の植え付けを始め、その後もシーズンに合わせて秋・冬野菜の植え付けに続く。竹林のタケノコは猪と半分ずつが基本だが我々の取り分は圧倒的に少ない。地元東別院小学校では全校生参加の1年生を迎える会「心学の道ウォーキングラリー」が催され、我々はその支援を行い新入生との初顔合わせとなる。5月末には、ウルチ米・モチ米・紫黒米と順次田植えも終わり秋の実りを待つ。モチ米の田植えは小学校児童との手植えで、その後の手刈り・餅つき大会につながる。

夏(7月~9月) 夏の作業はやっぱり大変。朝一番の散水で潤った畑も帰る時にはカラカラ。草刈も草の勢いには追いつかない。しかし、谷川に浸けた朝取りのイチゴ・スイカにかぶりつけば疲れは吹っ飛び、毎回リュック一杯の収穫物を詰め込み帰路につくのはこのシーズンで、折々の種類はスーパーの野菜売り場に匹敵する。

秋(10月~12月) 10月稲刈りが終わると地元では梅岩祭・梅岩フォーラム・心学の道ウォーキングと行事が続く、我々も梅岩先生の教えに触れるとともに地元交流の機会として参加。また、春から行ってきた杉枝打ち作業もこの頃には結果が目に見える状態となる。11月早々小屋の薪ストーブに火が入り、1泊2日の忘年会も終わり、12月の小学校餅つき大会は全校生対象に行い、当日は給食もなく餅三昧の楽しい一日となる。12月26日、フィールド入り口に大門松を飾り、仕事納めとした。



冬(1月~3月)
雪に埋もれた畑は作業にならない。用水路のツララが無くな

るまでは、堆肥作り・シイタケのホダギ切りなどもつばら春の準備である。昨年夏から秋にかけて植栽の果実の木の芽吹きが待ち遠しい時である。昨年、近郊農家の養蜂箱が熊の被害にあったとのこと、我々の箱も気を付けなければ。なお、小学校の29年度の森林学習を実施するにあたり我々に支援要請があり、それに応えるべく準備に入った。グループの活動も10年を経過し、今後永く続けていくためにも新しいメンバーの参加が望まれる。